事業仕分けで廃止になった理由と今後の施策を聞きたい

馬場（ばば）　茂（しげる）

問　敬老祝い金は、市としては今までどおりの予算で内容を変えるということだが、敬老祝い金にかわる施策は。

答　現在、研究中で、具体的な施策内容は未定である。

問　北部地域活性化事業は成功裏に実施できたが、廃止となったのはなぜか。

答　「事業仕分け」の結果を受け、事業のあり方や方向性について検討を行うこととし、現時点での取り組みを見送った。今後、地域の皆さんが主体となり、市内外から多くの来場者を迎えながら、深谷市の活性化に繋がるような事業を検討したい。

問　盛年式が、参加者が少ないという理由で廃止になった。市としては「ふかや市民大学」や各公民館で行う事業に参加することで目的は果たせるとのことだが、還暦の祝いというのは人生の中で、一回である。他の事業でかわれるものではないと思う。予算を減らすか、内容を変えるかして続けられないか。

答　予算や内容を見直して実施しても、さらに参加率の減少を招くこととなり、市として行う意義が薄れるので廃止とした。

問　米の所得補償モデル事業の現状は。

答　加入面積は、米を作付している947・1ヘクタールに対し、422・5ヘクタールで、割合は約45％。加入戸数状況は、米を作付している耕作者2581戸に対し、加入者は828戸で、加入割合は約32％。8月末現在「農地の貸しはがし」はない。

清掃センターの煙突の解体を

今村（いまむら）　三治（さんじ）

問　旧清掃センターの老朽化した煙突の解体は。

答　旧清掃センターは昭和34年、43年、49年と3回にわたり建設され、現在昭和43年に建設した55メートルと昭和49年に建設した59メートルの煙突が残っている。煙突の解体は衛生センターの再整備計画にあわせて平成25年度を目安に実施したいと考えている。

旧清掃センター煙突

問　ダイオキシンの心配は。

答　焼却炉内の灰や煙突の煙道部に付着していると思われるが、焼却炉を廃止し使用していない状態ではダイオキシンが飛散し、環境への影響はないと考える。しかし解体に伴うダイオキシンの除去にあたっては、煙突や焼却炉などダイオキシンを含む灰が残っている箇所を囲い込み洗浄するなどの方法により対応する。

問　パティオの敷地の周りにある植木を切れ。

答　今年度は10月上旬に樹木剪定の予定である。

問　松寿園についてスリがいるとか。

答　職員は確認できていない。

問　空き缶を持ち込むとか。

答　衛生上も好ましくないので持ち込まないよう注意している。

問　園の人の発言を止めるとか。

答　職員が発言を止めることはない。今後もないよう指導していく。

問　救急車を頼んでくれず人一人が死亡したとのことだが。

答　様態が急変したことにより、救急車を頼んだが残念な結果になってしまった。今後もより一層注意する。

所在不明高齢者について

柴崎（しばさき）　重雄（しげお）

問　全国各地で100歳以上の高齢者の所在が確認できないケースが相次いである。民生委員が抱える問題、個人情報保護法の影響を含め市の現状と今度の課題を聞きたい。

答　市では、100歳以上の高齢者44人を対象に訪問調査を実施し、全員の生活状況と安否確認を行った。また、民生委員が一人暮らし高齢者の安否確認を実施しているが、漏れなく把握するためには、住民基本台帳の情報提供の必要性が指摘されている。今後は、個人情報保護法を遵守しつつ、高齢者の生活を守るため、情報開示のための条件を再確認し、提供できるように努力していきたい。

熱中症対策について

問　記録的な猛暑日が続き、ヒートアイランド現象や地球温暖化による熱ストレスが強くなっている。深谷市での熱中症対策を聞きたい。

答　熱中症対策としてホームページ、携帯サイト、チラシ、関係諸機関の呼びかけ等啓発活動を繰り返し行い予防に努めている。今夏、消防本部管内において、127人が発症し内7名死亡している。今後も予防に努力していきたい。

ハチの駆除対策について

問　特に暑い今夏、ハチの巣が多数発見された。その対策はどうか。

答　くらしいきいき課が対応しており、スズメバチの巣は職員が直接駆除しており、その他のハチの巣に関しては柔軟な対応をしている。本年は駆除依頼227件と大変多くなっている。

スズメバチの巣

がんばる市内の中小企業を応援しよう

小川（おがわ）　真一郎（しんいちろう）

問　最近の市内の中小企業の景気・経済状況、動向をどのようにとらえて、どのように認識しているのか。

答　市単独での調査は行っていない。埼玉県のDI値により認識している。

問　緊急経済対策について問う。平成20年9月以降約33億7千万円を投資してきたが、その成果・効果はどうなのか。

答　市単独での具体的な経済効果は示せないが、確実に市内事業者に相応の経済効果があり、良い方向に進んでいると認識している。

問　経済対策として平成20年9月から平成22年7月末までに、総務課で発注された工事において、市内本店業者はどのくらい受注できたのか。

答　市内本店業者の受注率は、件数ベース96・4％、金額ベース86・2％となっている。

問　中小企業を対象とした、市の制度融資のさらなる拡充と柔軟な対応等により、市内の事業者を一層支援・育成できないものか。

答　平成20年より近代化経営資金の借入限度額を3千万円に引き上げ、また3年間利子の半分を補助する対応をしている。今後も中小業者が、借りやすい制度を目指していく。

今年の猛暑・酷暑による市内の農業への影響は

問　市内の野菜・花卉・畜産に今年の猛暑・酷暑は影響を及ぼしているのか。

答　猛暑・降雨不足により、影響が出ており、県や農業団体と連携し、生産体制の維持ができるよう取り組みたい。

埼玉県消防広域化推進計画について

富田（とみた）　勝（まさる）

問　埼玉県消防広域化推進計画では、平成24年末までに7つのブロックに統合し、広域化を実現するようだが、現状と今後は。

深谷市消防本部

答　深谷市消防本部は熊谷市、行田市、児玉郡市広域、秩父広域の5消防本部での枠組みで、第5ブロックに属し、連絡会議が行われたが具体的進展は見られない。市としては動向を見ながら検討していく。

問　消防団はどうなるのか。

答　消防組織法の規定により1市町村1団を置くことになっていて、広域の対象にはならない。

道路について

問　県道深谷・寄居線の道路側溝のふたかけが始まるようだが。また、県道花園・本庄線は深谷市の顔、花園インター周辺に通じ、一部は緑の回廊構想にも入っている。それぞれ市にとって重要な道路だが、今後の工事計画は。

答　2点とも熊谷県土整備事務所の報告だが、深谷・寄居線の道路側溝のふたかけについては、全体計画で大谷地区1200メートルの内300メートルを今年度整備して、残りについても予算要求をしながら整備していく。市としても引き続き整備を進めていくよう要望していく。花園・本庄線は荒川地区の一部未整備区間については旧140号国道との交差点付近を優先的に整備、続いてコスモス街道西、榛沢通り線の進捗状況を見ながら県道深谷・寄居線の北について進めていく。荒川地区の残り区間は地権者の協力を得ながら進めていく。

〈議会あれこれ「一般質問ってなあに?」…議案質疑とは別に議員が市の行政全般にわたり執行部側に対し自由に質問できるものです。9月議会では20人の議員が質問をしました。〉